



栗田工業株式会社

2020年3月期 第2四半期 決算説明会

(証券コード：6370)

2019年11月12日

1	2020年3月期 上期実績	p 1 -10
2	2020年3月期 通期見通し	p11-19
3	重点施策の進捗	p20-23

IFRSの任意適用

2020年3月期第1四半期より、IFRSに基づき開示しています。
前年同期の数値についても、同基準に従い組替表示しています。

事業利益

事業利益は、売上高から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しています。
財務諸表上で定義されている科目ではありませんが、過去の日本基準の営業利益との比較に有用と判断し、
任意開示資料上でのみ開示しています。

1 | 2020年3月期 上期実績

業績概況

(単位：億円)		2018/9期	2019/9期	前年同期比	前回計画 (8/9発表)	
受	注	高	1,396	1,378	△ 1.3%	1,387
売	上	高	1,265	1,318	+ 4.1%	1,346
事	業	利	109	137	+ 25.2%	123
そ	の	他	△ 28	48	－	40
営	業	利	81	185	+ 127.5%	163
税	引	前	83	188	+ 126.3%	164
親会社	の所有者に	帰属する	58	135	+ 133.6%	116
四	半	期				
利	益					
1株当たり四半期利益（円）		51.44	120.15	+ 133.6%	103.31	
為替 レ ー ト	USD（円）	110.3	108.6		110.0	
	EUR（円）	129.9	121.4		125.0	
	CNY（円）	16.8	15.7		16.6	

- 当期には、U.S.ウォーター社とアビスタ社の新規連結影響を含む。
- その他の収支には、前年同期に欧州のアルミナ化合物事業の譲渡損失を、当期に超純水供給事業用資産の売却益を含む。

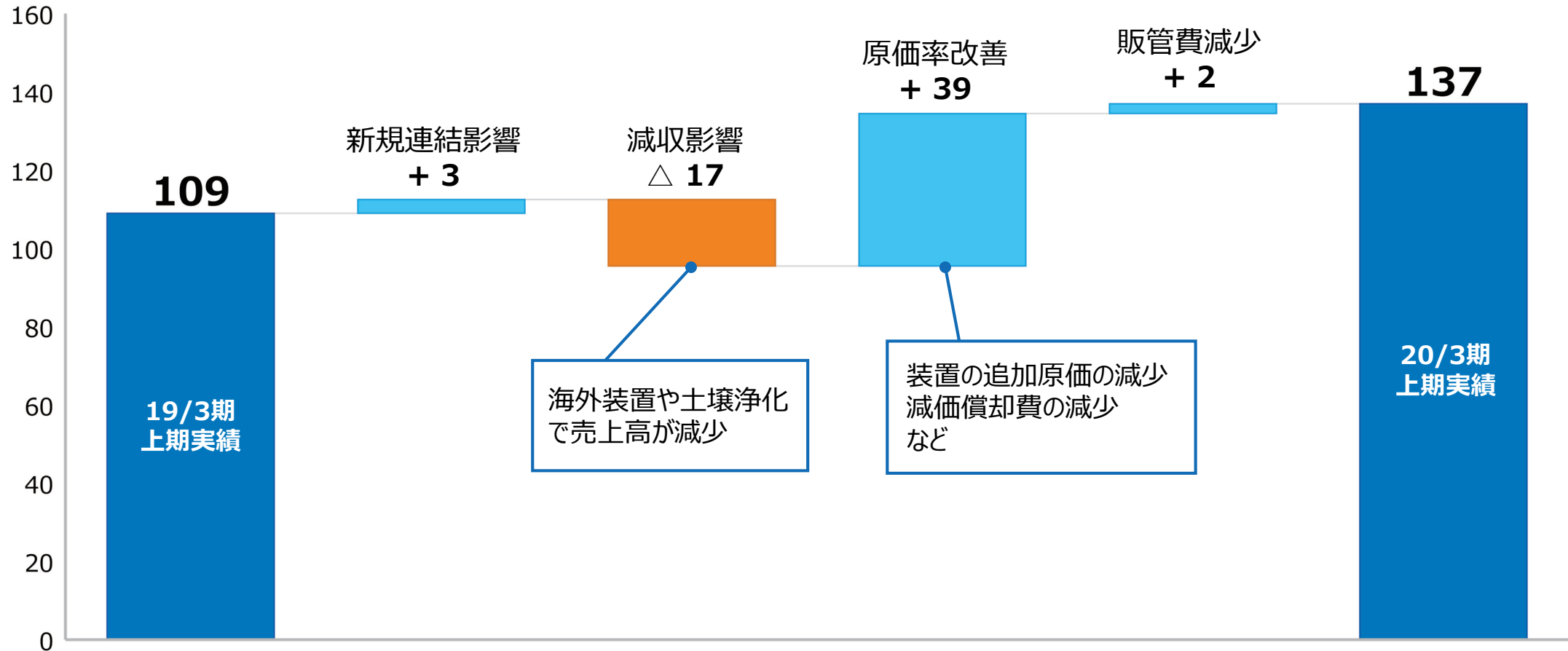
セグメント別の実績

(単位：億円)		2018/9期	2019/9期	前年同期比	前回計画 (8/9発表)
全社	受注高	1,396	1,378	△ 18	1,387
	売上高	1,265	1,318	+ 52	1,346
	事業利益	109	137	+ 28	123
	事業利益率	8.6%	10.4%		9.1%
	営業利益	81	185	+ 104	163
水処理薬品 事業	受注高	525	586	+ 61	605
	売上高	519	585	+ 66	600
	事業利益	52	65	+ 13	57
	事業利益率	10.1%	11.1%		9.4%
	営業利益	24	64	+ 40	49
水処理装置 事業	受注高	871	792	△ 79	782
	売上高	746	733	△ 14	746
	事業利益	59	73	+ 14	67
	事業利益率	7.9%	9.9%		8.9%
	営業利益	58	121	+ 63	115

- 新規連結の影響を除くと、両セグメントともに受注高・売上高は減少。
- 水処理装置事業は、国内において一般産業向け、電子産業向けともに、受注が大きく減少。
- 事業利益は、両セグメントともに原価率が改善し、増益。水処理装置事業では、追加原価の減少が寄与。
- 水処理装置事業の営業利益は、超純水供給事業用資産の売却益の計上により大幅に増加。

事業利益の増減要因（前年同期比）

（単位：億円）



(単位：億円)	2018/9期	2019/9期	前年同期比	前回計画（8/9発表）
受注高	525	586	+ 61	605
国内	235	240	+ 5	242
海外	290	345	+ 56	363
売上高	519	585	+ 66	600
国内	230	238	+ 9	236
海外	289	346	+ 57	364
事業利益	52	65	+ 13	57
事業利益率	10.1%	11.1%		9.4%
営業利益	24	64	+ 40	49

- 国内の売上高は、鉄鋼向けプロセス薬品やボイラ薬品、冷却水薬品が増加。
- 海外は、U.S.ウォーター社とアビスタ社の新規連結の影響を除くと減収。為替影響に加え、前年同期に実施した欧州のアルミナ化合物事業売却による。
- 事業利益は、売上高の減少を原価率の改善がカバーし、増益。

海外地域別売上高

(単位：億円)	2018/9期	2019/9期	前年同期比	前回計画（8/9発表）
アジア	140	135	△ 4	144
北米	24	101	+ 77	103
EMEA	112	97	△ 15	102
その他	13	13	△ 0	15
合計	289	346	+ 57	364

増減要因（億円）

オーガニック増減	△ 8
為替影響	△ 15
新規連結	+ 81

水処理装置事業（国内電子産業向け）

（単位：億円）	2018/9期	2019/9期	前年同期比	前回計画 （8/9発表）
受注高	316	272	△ 44	260
装置	63	14	△ 49	26
メンテナンス	88	96	+ 8	72
超純水供給事業	131	127	△ 4	127
精密洗浄	34	35	+ 0	36
売上高	278	285	+ 7	292
装置	37	45	+ 7	51
メンテナンス	75	78	+ 3	79
超純水供給事業	131	127	△ 4	127
精密洗浄	34	35	+ 1	36

- 装置は、受注高が前期に大型案件を受注した反動で減少したが、売上高が前期受注案件の工事進捗により増加。
- メンテナンスは、顧客設備の増強・補修需要が継続しており、受注高・売上高ともに好調に推移。
- 超純水供給事業は、新規に供給が始まった案件があったものの、一部契約の更新や変更があったことから、受注高・売上高ともに微減。

水処理装置事業（国内一般産業向け）

（単位：億円）	2018/9期	2019/9期	前年同期比	前回計画 （8/9発表）
受注高	373	322	△ 50	289
エネルギー・インフラ	274	256	△ 18	242
土壌浄化	83	52	△ 31	35
その他	16	15	△ 1	12
売上高	263	267	+ 4	258
エネルギー・インフラ	197	215	+ 18	208
土壌浄化	53	37	△ 15	38
その他	13	15	+ 2	12

- エネルギー・インフラの受注高は、電力向け装置で前年同期に大型案件があった反動で減少。
- エネルギー・インフラの売上高は、化学洗浄の伸長や、電力向け装置の受注残からの工事進捗などにより増加。
- 土壌浄化は、前年同期に大型案件があった反動により、受注高・売上高ともに減少。

水処理装置事業（海外）

（単位：億円）	2018/9期	2019/9期	前年同期比	前回計画（8/9発表）
受注高	182	197	+ 15	234
装置	121	139	+ 18	176
メンテナンス	45	44	△ 2	43
超純水供給事業	16	15	△ 1	15
売上高	206	181	△ 25	196
装置	161	121	△ 40	136
メンテナンス	29	45	+ 16	45
超純水供給事業	16	15	△ 1	15

- 受注高は、U.S.ウォーター社の新規連結影響を除くと減少。
- 中国向けの受注は、前年同期に大型案件があった反動で減少。
- 韓国向けの受注は、為替影響を除くと、ほぼ横ばい。
- 売上高は、新規連結影響を除くと大幅減。為替影響に加え、中国・韓国向けが減少。

地域別売上高

（単位：億円）	2018/9期	2019/9期	前年同期比
アジア	201	141	△ 61
北米他	4	40	+ 36
合計	206	181	△ 25

増減要因（億円）

オーガニック増減	△ 50
為替影響	△ 8
新規連結	+ 33

サービス事業売上高内訳

(単位：億円)	2018/9期	2019/9期	前年同期比	前回計画 (8/9発表)
水処理薬品事業	519	585	+ 66	600
水処理装置事業	510	526	+ 16	518
超純水供給事業	147	142	△ 5	141
精密洗浄	34	35	+ 1	36
土壌浄化	53	37	△ 15	38
国内メンテナンス	236	255	+ 19	246
海外メンテナンス	29	45	+ 16	45
その他	11	11	+ 0	12
合計	1,028	1,110	+ 82	1,118

- 水処理薬品事業やメンテナンスで売上が増加。
- 国内メンテナンスの増加は、官公需メンテナンスや化学洗浄の売上増による。
- サービス事業の構成比は81%から84%に向上。

設備投資・減価償却費・研究開発費

(単位：億円)	2018/9期	2019/9期	前年同期比
設備投資額（有形）	137	151	+ 14
超純水供給事業	-	94	-
上記以外	-	57	-
減価償却費（有形）	90	71	△ 19
水処理薬品事業	14	16	+ 2
水処理装置事業	76	55	△ 21
研究開発費	27	27	+ 0
水処理薬品事業	9	10	+ 1
水処理装置事業	18	17	△ 0

- 設備投資は、超純水供給事業や精密洗浄事業で増加。
- 減価償却費は、主に超純水供給事業で減少。水処理薬品事業の増加は新規連結の影響。

財政状態

(単位：億円)	2019年3月末	2019年9月末	増減
現金及び現金同等物	355	375	+ 20
その他流動資産	1,156	1,183	+ 27
流動資産合計	1,511	1,559	+ 48
有形固定資産	1,033	1,104	+ 71
のれん	380	446	+ 66
その他非流動資産	663	769	+ 106
非流動資産合計	2,075	2,319	+ 244
資産合計	3,587	3,878	+ 291
流動負債	731	944	+ 213
非流動負債	464	489	+ 25
負債合計	1,196	1,433	+ 238
親会社の所有者に帰属する持分	2,372	2,426	+ 54
非支配持分	19	18	△ 1
資本合計	2,391	2,445	+ 53
負債及び資本合計	3,587	3,878	+ 291

- 超純水供給事業や精密洗浄事業で有形固定資産が増加。
- アビスタ社の新規連結により、のれんが増加。
- コミットメントラインの実行により、借入金が増加。

2 | 2020年3月期 通期見通し

水処理薬品事業

- 国内製造業の生産活動は、一部で弱さが見られる。
- 米中貿易摩擦、中国の景気減速、日韓問題、欧州の成長鈍化といった景気下振れリスクが強まっている。

水処理装置事業

- 国内では老朽化設備や既存設備の更新・維持のための設備投資需要は堅調さを見込むが、一部に弱さが見られる。
- 韓国で半導体投資に回復傾向が見られるが、中国では半導体・FPD関連投資の延期も見られる。

業績見通しの概要

(単位：億円)		2019/3期 実績	2020/3期 見通し	前期比	前回計画 (8/9発表)
受	注	2,584	2,700	+ 4.5%	2,720
売	上	2,573	2,730	+ 6.1%	2,800
事	業	257	265	+ 3.2%	265
そ	の	△ 58	35	—	35
営	業	199	300	+ 51.1%	300
税	引	203	302	+ 49.0%	302
親会社の所有者に帰属する 当	期	121	213	+ 76.8%	213
1株当たり当期利益（円）		107.33	189.69	+ 76.7%	189.71
為替 レ ー ト	USD（円）	110.9	109.0		110.0
	EUR（円）	128.4	122.0		125.0
	CNY（円）	16.5	15.8		16.6

- 上期における事業環境の変化と為替の変動を踏まえ、受注高を20億円、売上高を70億円、それぞれ下方修正。
- 事業利益は、上期の利益進捗を踏まえ、前回計画を据え置き。

セグメント別の見通し

(単位：億円)		2019/3期 実績	2020/3期 見通し	前期比	前回計画 (8/9発表)
全社	受注高	2,584	2,700	+ 116	2,720
	売上高	2,573	2,730	+ 157	2,800
	事業利益	257	265	+ 8	265
	事業利益率	10.0%	9.7%		9.5%
	営業利益	199	300	+ 101	300
水処理薬品 事業	受注高	1,029	1,174	+ 145	1,204
	売上高	1,021	1,172	+ 151	1,201
	事業利益	99	115	+ 16	110
	事業利益率	9.7%	9.8%		9.2%
	営業利益	48	105	+ 57	97
水処理装置 事業	受注高	1,555	1,526	△ 29	1,516
	売上高	1,552	1,558	+ 6	1,599
	事業利益	161	150	△ 11	155
	事業利益率	10.4%	9.6%		9.7%
	営業利益	149	195	+ 46	203

- 受注高は、水処理薬品事業の見通し減額により20億円の下方修正。
- 水処理装置事業の受注高は、メンテナンスや海外で計画を上回る見込みであることから、上方修正。
- 売上高は、水処理薬品事業・水処理装置事業ともに見通しを減額し、70億円の下方修正。
- 事業利益は、下期における水処理装置事業の悪化を、水処理薬品事業の改善がカバーする見通しで、前回計画を据え置き。

※各セグメントの2019/3期通期実績は、未監査のIFRS参考値です。

(単位：億円)	2019/3期 実績	2020/3期 見通し	前期比	前回計画（8/9発表）
受注高	1,029	1,174	+ 145	1,204
国内	462	470	+ 8	473
海外	567	704	+ 136	731
売上高	1,021	1,172	+ 151	1,201
国内	455	468	+ 13	470
海外	566	704	+ 138	731
事業利益	99	115	+ 16	110
事業利益率	9.7%	9.8%		9.2%
営業利益	48	105	+ 57	97

- 受注高・売上高は、為替の変動や、欧州や中国が前回計画を下回る見込みであることから、下方修正。
- 事業利益は、新規連結会社の利益貢献を反映し、5億円の上方修正。

海外地域別売上高

(単位：億円)	2019/3期 実績	2020/3期 見通し	前期比	前回計画（8/9発表）
アジア	281	273	△ 8	287
北米	45	205	+ 160	205
EMEA	213	198	△ 15	209
その他	27	27	+ 0	30
合計	566	704	+ 138	731

増減要因（億円）

オーガニック増減	+ 3
為替影響	△ 24
新規連結	+ 160

※2019/3期通期実績は、未監査のIFRS参考値です。

水処理装置事業（国内電子産業向け）

（単位：億円）	2019/3期 実績	2020/3期 見通し	前期比	前回計画 (8/9発表)
受注高	618	569	△ 49	569
装置	109	51	△ 58	66
メンテナンス	182	184	+ 2	161
超純水供給事業	258	262	+ 5	269
精密洗浄	69	71	+ 2	73
売上高	594	573	△ 22	591
装置	98	70	△ 28	77
メンテナンス	170	170	+ 0	172
超純水供給事業	258	262	+ 5	269
精密洗浄	69	71	+ 2	73

※2019/3期通期実績は、未監査のIFRS参考値です。

- 装置は、一部案件の延期などにより、受注高・売上高ともに下方修正。
- メンテナンスは、顧客設備の増強・補修需要の増加により、受注高を上方修正。
- 超純水供給事業と精密洗浄事業は、顧客工場の稼働状況を踏まえ、見通しを下方修正。

水処理装置事業（国内一般産業向け）

（単位：億円）	2019/3期 実績	2020/3期 見通し	前期比	前回計画 (8/9発表)
受注高	635	582	△ 53	576
エネルギー・インフラ	499	471	△ 29	468
土壌浄化	106	85	△ 20	81
その他	30	26	△ 4	26
売上高	565	602	+ 37	610
エネルギー・インフラ	433	490	+ 57	498
土壌浄化	104	85	△ 19	85
その他	28	27	△ 1	27

※2019/3期通期実績は、未監査のIFRS参考値です。

- エネルギー・インフラの受注高は、官公需メンテナンスは前回計画を下回るが、一般産業向けメンテナンスがカバーし、ほぼ前回計画並みの見通し。
- エネルギー・インフラの売上高は、一般産業向けメンテナンスは前回計画を上回る見込みだが、一般産業向け装置と官公需メンテナンスの下振れにより、下方修正。
- 土壌浄化は、受注高を上方修正し、売上高は前回計画を据え置く。

水処理装置事業（海外）

（単位：億円）	2019/3期 実績	2020/3期 見通し	前期比	前回計画（8/9発表）
受注高	302	376	+ 74	371
装置	184	264	+ 80	257
メンテナンス	86	83	△ 3	84
超純水供給事業	32	29	△ 3	30
売上高	393	383	△ 10	398
装置	284	261	△ 23	279
メンテナンス	77	94	+ 17	89
超純水供給事業	32	29	△ 3	30

- 受注高は、中国で下振れを見込むが、韓国で計画を上回る見込みであるため、上方修正。
- 売上高は、為替影響と中国の下振れにより、下方修正。

地域別売上高

（単位：億円）	2019/3期 実績	2020/3期 見通し	前期比	前回計画（8/9発表）
アジア	381	276	△ 106	302
北米他	11	107	+ 96	96
合計	393	383	△ 10	398

増減要因（億円）

オーガニック増減	△ 78
為替影響	△ 13
新規連結	+ 81

※2019/3期通期実績は、未監査のIFRS参考値です。

サービス事業売上高内訳

(単位：億円)	2019/3期 実績	2020/3期 見通し	前期比	前回計画 (8/9発表)
水処理薬品事業	1,021	1,172	+ 151	1,201
水処理装置事業	1,074	1,117	+ 43	1,118
超純水供給事業	290	291	+1	299
精密洗浄	69	71	+ 2	73
土壌浄化	104	85	△ 19	85
国内メンテナンス	512	552	+ 40	547
海外メンテナンス	77	94	+ 16	89
その他	22	25	+ 3	25
合計	2,095	2,289	+ 193	2,319

※2019/3期通期実績は、未監査のIFRS参考値です。

- 国内外のメンテナンスが好調に推移する見込みだが、水処理薬品事業が前回計画を下回ることにより、下方修正。
- サービス事業の構成比は、前回計画の83%から84%に増加。

設備投資・減価償却費・研究開発費

(単位：億円)	2019/3期 実績	2020/3期 見通し	前期比	前回計画 (8/9発表)
設備投資額（有形）	381	240	△ 141	240
超純水供給事業	279	120	△ 159	115
上記以外	102	120	+ 18	125
減価償却費（有形）	169	163	△ 6	160
水処理薬品事業	33	33	+ 0	33
水処理装置事業	136	130	△ 6	127
研究開発費	55	56	+ 1	56
水処理薬品事業	19	18	△ 1	18
水処理装置事業	36	38	+ 2	38

※2019/3期通期実績は、未監査のIFRS参考値です。

- 設備投資は、超純水供給事業向けの通期見通しを増額。
- 減価償却費は、上期の設備投資の進捗を踏まえ、若干の見直し。
- 研究開発費は前回計画を据え置く。

3 | 重点施策の進捗

水処理薬品事業・水処理装置事業を手掛ける3社の生産・調達・販売網の集約



2019年4月～2019年9月

- クリタ・アメリカ本社をフレモント社の拠点に移転

2019年10月～2020年3月

- 米国全土に広がる生産・販売網の集約
- サプライチェーンの統合
- 財務・法務等の管理体制の構築

PMI、PPAのコストが発生

2020年4月～

- コスト構造のスリム化
- 利益性の向上

収益貢献

総合ソリューション拡充の取り組み

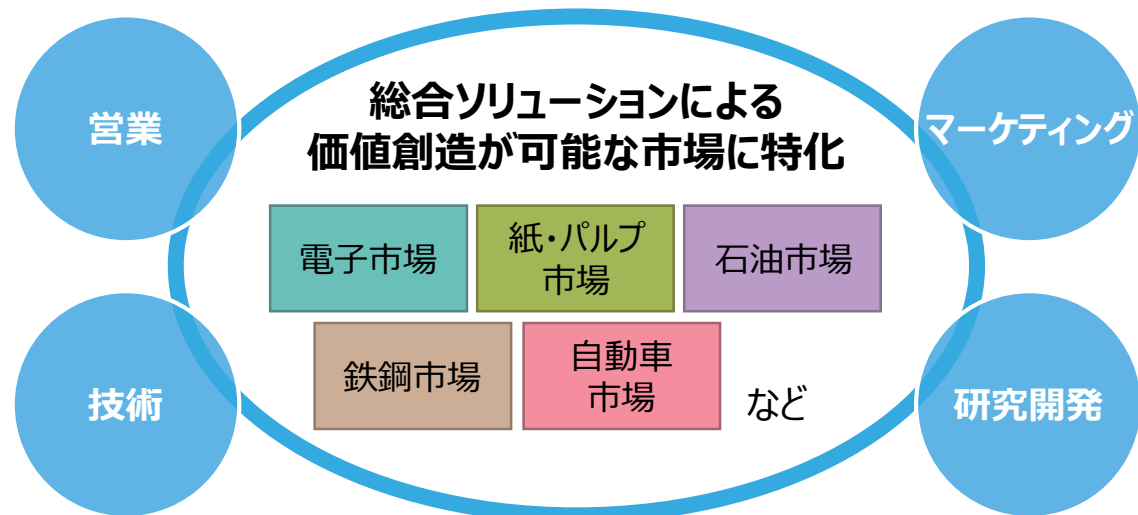
2019年4月～2019年9月

- 市場別のワーキンググループによるモデル開発
- ソリューションモデルの絞り込み
(約40の候補から、6つのモデルを選定)

2019年10月～2020年3月

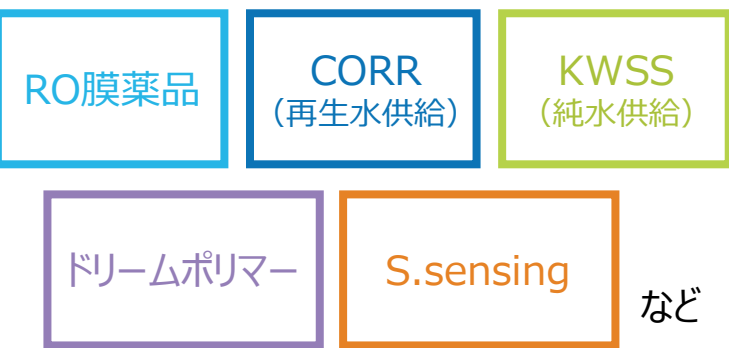
- 国内・海外におけるソリューションモデルの事業展開促進
- 新規ソリューションモデルの作り込み

総合ソリューションの検討体制



+

展開に有力な製品・技術・サービス



大量の水を循環利用する
過程で微生物が発生

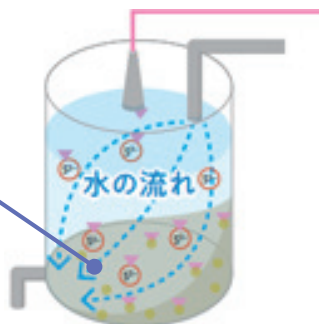


従来

ビジネスモデル：水処理薬品の供給

スライムコントロール剤▼

原料が滞留し
腐敗



水処理薬品
のみによる
処理

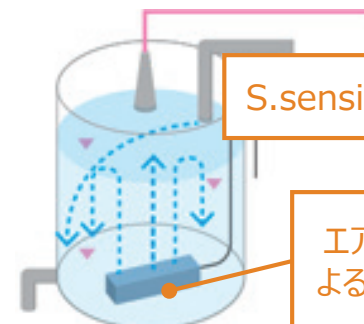
課題

- ① 製品品質の低下
- ② 水処理薬品が大量に必要
- ③ 臭気が発生

ソリューションモデル

ビジネスモデル：サービス契約
(期待されるメリットに応じた対価を受領)

スライムコントロール剤▼



遠隔監視による薬注と
エアレーションの制御



改善効果

- ① 製品歩留まりの改善
- ② 薬品使用量の削減
- ③ 環境衛生コストの低減

国内営業本部の統合 2019年4月～

水処理薬品

メンテナンス

水処理装置

- 2019年4月1日から、3事業を集約
- 営業担当の意識変革（薬品・メンテナンスの相互教育体制、総合ソリューション事例の共有・展開）



販売子会社の事業統合 2019年10月～

2019年11月1日 水処理薬品・メンテナンスの統合販売子会社（クリタ北関東）を設立

水処理薬品

メンテナンス

- 内陸市場での総合ソリューション提案を強化
- 一顧客一窓口の実現
- 販売特約店との連携を強化



国内市場での販売体制強化と収益性の向上へ



将来見通しに関する注記事項

本資料に掲載されている計画数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。